新潟県透析医会だより

青池郁夫

各地域により，日本透析医会の支部のあり方は様々だと伺っておりますが，本稿では新潟県における支部の経緯と現況についてご報告致したいと思います．

1　新潟県透析医会（日本透析医会新潟県支部）の変遷

日本透析医会の前身であった都道府県透析医会連合会が昭和54年4月に設立され，会長に平澤由平先生（信楽園病院）が就任されました．昭和60年6月に「日本透析医会」へと名称が変更され稲生剛政先生が会長となられましたが，平澤先生は，大森伯先生（大森内科医院）と共に設立当初から頻回に上京を重ねられ御尽力されたと伺っております．創設以来，日本透析医会の新潟県支部の会長として大森先生が長年にわたり実務を執っておられましたが，平成20年に後任として甲田豊先生（甲田内科クリニック）が新潟県透析医会の業務を引き継がれました．甲田先生は支部の業務を精力的に務めておられましたが，平成29年5月に日本透析医会の常任理事に，また，同年6月には新潟県燕市の市医師会長の重責に就かれ御多忙を極められる事となりましたため，青池が新潟県透析医会の会長代行を務める事となりました．

近年は危機管理の拡充などもあり業務が年々多様化していることや，今後の透析医療の環境変化への対応強化を図るために組織を改組する事とし，平成29年より成田一衛先生（新潟大学教授），鈴木正司先生（信楽園あかつか診療所），甲田先生，青池よりなる改組の発起人会を結成し組織の改編に臨みました．多職種の連携，行政との連絡，保険診療の検討，スタッフ教育，既存の新潟透析災害対策会議の拡充など多くの課題に接し，できる限り新潟県全体で対応を図る事が必要であると判断し，新潟透析医学会と一体となって新たに機能的な組織を構築する事を模索致しました．新潟透析医学会会長である成田先生の御英断も頂き，令和1年9月の新潟透析医学会幹事会で荒川正昭先生（新潟大学名誉教授），下条文武先生（新潟大学名誉教授）の御助言を頂き，改組案を御了承いただく事が出来，直ちに改組に着手致しました．

2　新潟透析医学会について

本年5月に第63回新潟透析医学会（大会長：近藤大介先生新潟市民病院副院長）が開催されました．本会は昭和45年10月に発足した新潟透析懇話会が前身で，新潟大学（木下康民教授：昭和38年12月から腹膜灌流（透析），昭和41年1月から血液透析を開始），信楽園病院（昭和43年3

新潟県透析医会会長/向陽メディカルクリニック

月透析室開設），長岡赤十字病院，県立新発田病院などで年 1〜2 回の検討会が行われていたものが県内全域に広がり，平成 28 年の第 58 回より名称を“新潟透析医学会”に変更しております．近年では，学会と同時に新潟県透析施設連絡会議を開催し全県での情報共有を図り，また年 1〜2 回の頻度で山本卓先生（新潟大学准教授）を中心に新潟県透析医会，県内各地域の拠点病院，新潟県臨床工学技士会と合同で新潟県透析災害対策会議を行っています．

3　改組着手とほぼ同時にパンデミック

令和 1 年 9 月の新潟透析医学会幹事会で御了承いただき，直ちに改組案の作成や中心となる先生方への御説明など始めた矢先に，令和 2 年 1 月から新型コロナウイルスによるパンデミックが始まり，会議や打ち合わせ等が遅々として進まない状況になりました．最初の頃は Web 会議も思うような討論が出来ない状況でしたが，多くの方々のご協力を得て事前説明会なども行いつつ，一部ハイブリッドで開催した令和 2 年 11 月の第 62 回新潟透析医学会（大会長：大澤豊先生新潟臨港病院副院長）において新組織を暫定的ではありますがスタートさせる事が出来ました．未だ新旧体制が入り交じっておりますが，今後も必要に応じた会のあり方を取り入れながら ALL 新潟で進んで行きたいと思います．

4　新しくなった新潟透析医学会

新しくなった新潟透析医学会では成田会長，事務局長：島田久基先生（信楽園病院）のもと，腎臓疾患の研究や臨床，透析医療にかかわるすべての職種の方に御参加いただける様に職種部会を設けました．医師は，医師部会として参加しますが，医師部会が新潟県透析医会（日本透析医会新潟県支部）の会務を担う事としました．新潟県透析医会の会長は青池が継続し，新たに副会長として恵以盛先生（山東第二医院），大森健太郎先生（大森内科医院）にお引受けいただきました．（図 1）

新潟県は南北に細ながく，本土沿岸の海岸線は約 330 Km に及び，沿岸部，離島，山間部などの地理的要因や地域性，冬季の積雪等を考慮した災害対策時の対応が必要で，各施設には地域部会としてご参加いただく工夫を致しました．また，幹事会として行政機関との綿密な連絡体制を築く予

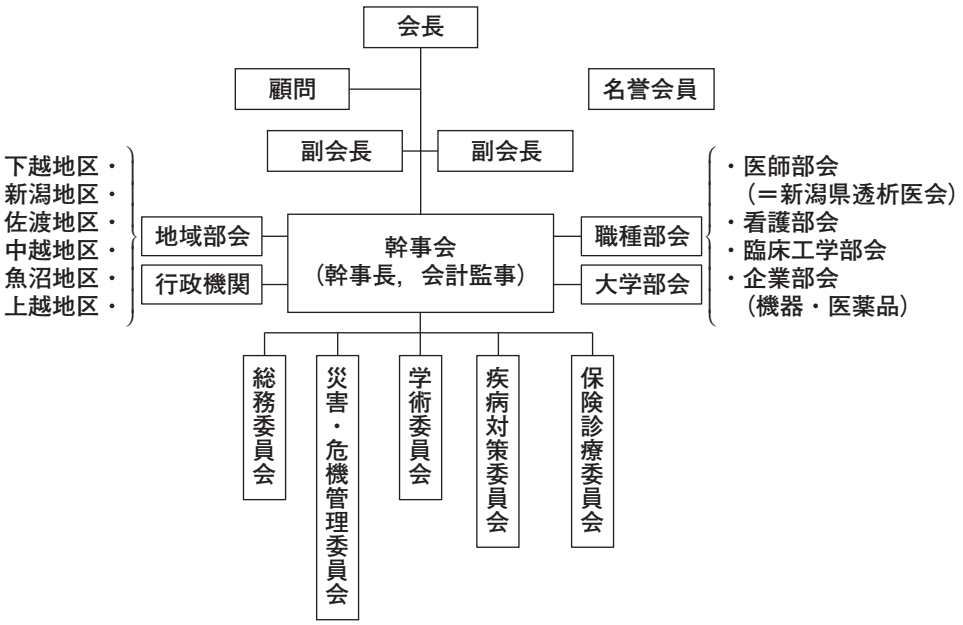

図 1　新潟透析医学会組織図

定です．さらに，新潟大学には腎・膠原病内科，腎研究センター（基礎部門，臨床部門，トランスレーショナルリサーチ部門，腎泌尿器病態学分野，小児科学分野）など，最新かつ幅広い英知や設備，人的資産が備わっており，あらゆる面でご協力をいただけるよう大学部会を設けました．

今回は，改組に伴う定款の変更を行い本会に企業の方も会員としてご参加いただけるよう企業部会を新設致しました．災害対策やスタッフ教育など様々な面で企業部会会員にご協力いただきたいと考えています．必要に応じた実際の活動は，各種の委員会を設けて常設的に対応する予定です．

おわりに

新しい組織の活動は，新型コロナウイルスのパンデミックが終息した後に活発な活動が可能となると思われますが，一日も早く貢献できることを切に願っています．